

指導教員によるコメント

ゴイハン氏の研究テーマは、一貫して少数民族教育を扱っており、特に、言語面での教育改革を扱っている。多文化教育、多言語状況における教育、第二言語習得などの研究は今やグローバルな視野が不可欠になっており、グローバルなトレンドとローカルな意味を常に往復させながら問い直していかねばならない。今回の海外アカデミック・ディスカッションにおいて、ゴイハン氏は、中国の民族教育における言語政策に関する問題意識から出発し、米国ニューヨーク市立大学の **Ofelia Garcia** 教授のもとで、講義の受講、公立小学校の見学などに参加し、多くの刺激を得ることができたと思われる。多言語・多文化教育の先進的実践を吸収することがきわめて有益なことであり、この後の研究に活かされていくものと思われる。ただ、今回ゴイハン氏が経験したことも、あくまでも米国というローカルな事例の一つであることをよく認識し、それを相対化しつつ、中国の事例がどう位置づけられるのか、検討するようにしていただきたいと思う。

浜野 隆（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 准教授）